

2022年9月25日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「サムソンの力は神のもの」

聖書：士師記15:9～20

サムソンの物語。サムソンの誕生は「不妊の女から」始まる。主の御使いが現れ、「あなたは身ごもって男の子を産むであろう」と告げる。このような箇所は聖書の中に多くある。アブラハムの妻サラ、サムエルの誕生もそう。その他まだある。そしてイエス・キリストの誕生も主の御使いの告知によりなされていく。真の祝福は女性から始まることを表している。神の祝福はこの世の小さきものに、差別されてきた者に、そして祝福はこの世で最も力のない、弱さの象徴である幼子に置いている。私たちはそこに気づいていく必要がある。この世は神の思いに反した歴史を繰り返していることを見逃してはいけない。

サムソンは活躍と没落の道を歩む。襲い掛かるライオンを引き裂く力を見せつける。しかしサムソンは女に騙されていく。また物語は、ペリシテ人 1000 人を打ち殺した、とある。そしてサムソンの最期は、デリラという女性を愛することでまた騙され、ついに彼の秘密が密告され、サムソンは頭をそられ力を失い、ペリシテ人の手に落ちた。彼は両眼をえぐり出され、ガザの牢で家畜のように粉をひかされるようになり、ペリシテ人の見世物にされた。最後は二本の柱に手をかけ倒し、建物を倒壊させ、多くのペリシテ人を道連れにして死んでいく。サムソンの最後は、非常に悲しい結末になっている。

この士師記が成立したのは紀元前 6 世紀。イスラエル王国滅亡後のこと。20 節に「彼はペリシテ人の時代に二十年間、士師としてイスラエルを裁いた。」とあるようにこの物語は、イスラエル王国の裁きの言葉が記されている。自らの力、国家の力により頼み、なお力を蓄え力に誇る時、人はその力を振るい、権力を我が物とする。その時、人は滅びの道に向かう。詩編 62 編「暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。力が力を生むことに心を奪われるな。・・・力は神のもの」とある。この神の教えを学ぶならば、この世から暴力はなくなり、戦争はなくなる。

サムソンの力は神のものであったことを思い起こし、力はどう使うべきかを考えていきたい。(神谷)